

降雪に伴う農作物等の技術対策について

平成26年2月28日

農業支援課

2月14日（金）から15日（土）にかけての記録的な大雪により、施設の倒壊被害が発生しています。また、融雪水等の停滞による湿害の発生が懸念されます。

以下の技術対策資料を作成しましたので、参考にしてください。

共通事項

- 1 融雪水が流入したり、湛水しないよう施設やほ場周辺に排水溝を確保する。
- 2 施設の破損、倒壊等が生じた場合には、早急に修復を行い、施設内温度の確保に努め、低温による栽培作物の生育障害・枯死等の被害を防止する。
- 3 一部損壊を受けた施設内の作物はトンネルやべたがけ等で被覆し、保温する。
- 4 積雪等により停電の発生する恐れがあるため、電源や設備の状態に注意する。
- 5 被害が甚大な場合には、今後作付け可能な作物に切り替える。

今後作付け可能な作物一覧

品目		播種時期	定植時期	収穫時期
秋冬ねぎ		3月～4月	6月～7月	12月～
トンネル早熟きゅうり		（購入苗）	4月中旬	5月～8月
露地なす		（購入苗）	4月下旬 ～5月上旬	6月下旬 ～11月
スイートコーン	1重トンネル（直播）	3月上～下旬	—	6月下旬 ～7月上旬
	ベタ掛け（直播）	4月上旬	—	7月中旬
ほうれんそう、こまつな		3月～4月	—	5月～6月
アスター		3月下旬 ～4月下旬	4月下旬 ～5月中旬	7月中旬 ～8月下旬
ケイトウ		5月下旬	—	8月中旬
		7月上旬	—	9月中旬
なし、もも、プルーン、キウイフルーツ		—	11月	—
ぶどう		—	3月～ 4月中旬	—
いちじく		—	3月	—

※ 種子や苗の手配を早めに行うことが必要。

麦 類

- 1 明渠を排水口へ連結し、ゴミによる詰まりがないか点検する。
- 2 気温の上昇により雪どけ水がほ場に滞水すると湿害を受けるので、速やかに排水対策を講じる。
- 3 融雪後、ほ場に入れる状態になったら追肥を行う。
- 4 既に幼穂赤かび病の発生が助長されるため、適期に予防散布を行う。

野 菜

- 1 施設栽培
 - (1) 降雪後の急速な天候回復に伴って、葉や果実の日焼けを生じることがあるので、温度管理に注意するとともに、急激な換気はしない。
 - (2) 降雪に伴って日照不足による草勢低下が心配されるため、摘葉を控えるなど、葉面積を確保して草勢を維持する。
- 2 トンネル栽培・露地
 - (1) 小型トンネルは早めに除雪を行うとともに、融雪水の排水に努める。
 - (2) ほ場に入れるようになったら、トンネルを早めに修復する。

果 樹

- 1 枝折れ等が発生した場合は、樹体の損傷程度に応じて、折れているところで切り直し、癒合剤を切り口に塗布したり、ボルト等を使った損傷部の癒合を図るとともに、病害の適切な防除を行う。
- 2 樹勢回復のため常緑果樹は葉面散布と液肥による土壌かん注を行う。落葉果樹では液肥による土壌かん注を行う。

花 植 木

- 1 施設栽培では共通事項に示した対策を講じる。
- 2 降雪後の急速な天候回復に伴って、花や葉に日焼けが生じることがあるので、温度管理に注意するとともに、急激な換気は避ける。
- 3 降雪や積雪等で日照不足となり草勢低下や病害が心配されるため、草勢を維持するため液肥や病害虫の防除をして草勢を回復するよう管理する。

チャ

- 1 うね間を除雪する場合、雪に埋もれている枝葉を踏み折る危険性がある。融雪資材(ヤシガラ炭、炭素粉末、燐炭等)や堆肥等を散布する場合、できるだけ注意して除雪を行う。
- 2 積雪の影響でうね間に多くの枝がかぶさっている。できるだけ枝を元に戻すと同時に裾刈りを行い、施肥攪拌できるスペースを確保する。施肥は3月上～中旬に、窒素 18kg・リン酸 7.2kg・カリ 9kgを目安に散布する。
- 3 積雪の影響が残り摘採面のデコボコが大きいため整枝作業はできる限り遅らせる。3月下旬～4月5日頃までに行う。例年より丁寧に、必ず複数回行う。
 - 1 週間程度あけて2回目の整枝を1回目と反対側から行う。
また、中切り、台切り等更新が必要となる茶園は、3月中旬以降5月末までに完了できるように計画する。
- 4 融雪後伸長する新芽を保護するために薬剤防除を励行する。

畜産

- 1 畜舎等の破損・倒壊等が生じている場合には、早急に応急措置を行い、施設内温度の確保に努める。また、修復が困難な場合には、可能な限り、他の施設に家畜を移動するよう努める。
- 2 閉め切った畜舎内はアンモニア等の有害ガス濃度が高まりやすいことから、換気に留意する。

農作業安全の確保

被害を受けた農業用施設における作業は、次の事項について留意する。

- 1 農業用倉庫やハウスを点検・修復等をする場合は電源を切って作業する。
- 2 落雪等の衝撃により貯油設備や配管に漏れが無いよう点検する。
- 3 燃料タンクはコックを締め燃料がもれないようにして作業する。
- 4 燃料が漏れた場合はオイルマット等により吸着し適切に処理する。
- 5 高所で作業を行う場合には、ヘルメット、安全帯や命綱を必ず使用し、靴は滑りにくいものをはき、作業をする。
- 5 高所と地上の共同作業は、お互いによく連絡を取り合い、落下物の防止に注意して行う。
- 6 滑りやすい場所や踏み抜きの恐れがある場所では、踏み板を使う等十分注意する。
- 7 雪が積もった施設では、施設の倒壊や落雪に注意し、安全を確保しながら作業を行う。